

報道関係機関と地球研との懇談会

2017年 6月14日(水) 14:00~15:15
 京都烏丸コンベンションホール 会議室1

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下る七観音町634 TEL. 075-231-6351

司会進行：遠山 真理^{とよま まり} サイエンスコミュニケーター

1 開会挨拶

窪田 順平^{くぼた じゅんぺい} 副所長

2 講演会・セミナー・受賞などのお知らせ

第72回地球研市民セミナー 「ほっとけない」からの環境再生

2017年6月16日(金) 18:30~20:00

ハートピア京都大会議室

講師：菊地 直樹 (地球研 准教授)

聞き手：三村 豊 (地球研 センター研究推進員)



地球研市民セミナーは、地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において開催しています。

今回は、2017年3月に出版された地球研和文学術叢書『「ほっとけない」からの自然再生学』の著者である菊地直樹先生による刊行に寄せての講演です。

そこにいる生き物、自然、環境のことを「ほっとけない」。ついつい聞き漏らしてしまいがちですが、ふりかえてみると、環境再生に取り組む地域を歩く私の耳に、幾度となく入ってきた言葉です。ではなぜ「ほっとけない」のでしょうか。

「ほっとけない」とは、人間以外も含む他者に出会ってしまったとき、その困難を自らのものとして感じ取る能力を表す言葉ではないでしょうか。そこには、この指とまれ的な積極的な主体性というよりも、受動的な主体性が現れています。人びとが環境にかかわろうとする心情を表す言葉とっていいかもしれません。講師自身が深くかかわってきた絶滅危惧種コウノトリの野生復帰の取り組みを中心に、「ほっとけない」という言葉を手がかりにしながら、みなさんと共に、人びとにとっての環境再生を考えます。さらに、当事者性のある研究についても考えてみます。

第73回地球研市民セミナー 「フューチャー・デザイン」

2017年7月4日（火）18:30～20:00

ハートピア京都大会議室

講師：西條 辰義（地球研 特任教授）

聞き手：小林 舞（地球研 プロジェクト研究員）



私たちの社会を支える主要な柱として、市場経済と民主制があります。しかし、どちらも私たちの子どもや孫たち、将来世代のことが考慮されていないという問題があります。市場は「将来世代を考えて資源を配分する仕組み」ではありません。現在の期待や危機で一喜一憂するのが市場なので、現代はどうしても近視眼的な思考になり、将来世代の資源を残すことを考慮できないのです。さらには、民主制も、今の人々の利益を実現する仕組みであり、「将来世代を取り込む仕組み」ではありません。選挙運動で遠い将来の人々にとって良い政策を提示したところで、その候補者は当選しないでしょう。

それではどのような仕組みを考えればよいのでしょうか。「今の利得が減るとしても、これが将来世代を豊かにするのなら、この意思決定・行動そのものがヒトをより幸福にする」というヒトの性質を「将来性」と呼びましょう。将来性を生む社会の仕組みの設計とその実践がフューチャー・デザインです。

地球研一般公開

「2017年度地球研オープンハウス～「？」と「！」をシェアする夏～」

2017年7月28日（金）9:30～13:00

総合地球環境学研究所

地域の方々と交流を深めるために施設や研究内容を紹介する、年に一度の地球研一般公開です。2011年から開催しており、昨年は753名もの方にお越しいただき大賑わいでした！

チラシ作成中

秋道智彌地球研名誉教授が第44回伊波普猷賞を受賞

2017年2月、秋道智彌氏（地球研名誉教授・山梨県立富士山世界遺産センター所長）が、著書『サンゴ礁に生きる海人—琉球の海の民族生態学』（榕樹書林）の研究功績を認められ、第44回伊波普猷賞を受賞しました。同賞は、沖縄学の父といわれた伊波普猷の業績を顕彰し、故人に続く郷土の文化振興と学術の発展に寄与すると認められる研究や著書に贈られるものです。著書では、1970年代からの沖縄のフィールドワーク研究とさまざまな歴史資料を統合し、サンゴの海に生きるウミンチュ（海人）の世界を、沖縄とつながる東南アジア・オセアニアの海人を見据えながら紹介し、ウミンチュの生きざまとその知恵を未来に伝えるべきと提言しています。授賞式は、2017年2月13日に那覇市内にて開催されました。



価値を生み出すトイレ

ふなみず なおゆき
船水 尚行 地球研教授／北海道大学大学院農学研究院特任教授

人のし尿を扱うサニテーションは世界の課題です。世界保健機関によれば、2015年時点で世界の24億人がトイレなど適切な衛生施設を使えない状態にあります。一方、私たちの住む日本では下水道などのサニテーションの仕組みは生活環境と自然環境を守ることに貢献してきました。しかし、地方の過疎化と高齢化の進行により下水道の経営が苦しくなっている地域があります。また、古くなった施設を新しくするための準備はなかなか進んでいません。

この問題を解決するために、私たちは先進国と開発途上国の共通の目標として、「サニテーション価値連鎖」という新しい考え方を提案しています。サニテーションの役割を一步進め、より目に見える価値をサニテーションが生み出すことで、社会の中でサニテーションに関わる価値連鎖を作っていくと考えています。そのために、工学・保健科学・経済学・農学・人類学の専門家がチームを作って頑張っています。



トイレを持っている家が全体の約1/3しかない地域の様子
赤丸はトイレ、青丸は外で用を足す人の場所
(Photo by Sikopo P. Nyambe)



「ほっとけない」からの環境再生

きくち なおき
菊地 直樹 地球研准教授

そこにいる生き物、自然、環境のことを「ほっとけない」。つつい聞き漏らしてしまいがちですが、ふりかえてみると、環境再生に取り組む地域を歩く私の耳に、幾度となく入ってきた言葉です。では、なぜ「ほっとけない」のでしょうか。

「ほっとけない」とは、人間以外にも含む他者に出会ってしまったとき、その困難を自らのものとして感じ取る能力を表す言葉ではないでしょうか。そこには、この指とまれのような積極的な主体性というよりも、受動的な主体性が現れています。人びとが環境にかかわろうとする心情を表す言葉と聞いていいかもしれません。

私自身が深くかかわってきた絶滅危惧種コウノトリの野生復帰の取り組みを中心に、「ほっとけない」という言葉を手がかりにしながら、人びとが環境再生に関わることの意義を考えてみようと思います。さらに、当事者性を有する環境研究のあり方についても提案してみようと思います。



放棄田をコウノトリの餌場へと再生。経済的に成り立たないのに、なぜ取り組むのでしょうか？



「環境ものさし」が育む地域のつながり 効果がみえれば環境に優しい農業はこれだけ広がる

あさの さとし
浅野 悟史 「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会—生態システムの健全性」プロジェクト研究員

近年、環境配慮型農業や保全型農業が、消費者の「環境志向」、「安心・安全」といった社会ニーズの高まりと共に経済的にも支持されるようになってきました。その中で、希少性の高い生きもの名を冠したブランド米も多くみられるようになりましたが、一方で、イメージが先行しがちで、農家自身の営農努力と温度差を感じることもあります。

私たちのプロジェクトでは、滋賀県甲賀市の中山間地域で、農家の方にもわかりやすい「地域の環境ものさし」として、ニホンアカガエルを選びました。ニホンアカガエルの卵塊数が環境保全型農業の効果をしっかりと反映していることが示されると、農家の方による翌年の取り組み数は4倍に増加しました。また、「地域の環境ものさし」に触発された農家自身の発案で新たにホタルの地図づくりや観察コースの整備がすすめられ、地域づくりへの効果も確認されました。このような取り組みは、地元小学校の課題研究の対象となり、私たちも出前授業に赴くなど、職や世代を越えたつながりが生まれつつあります。



滋賀県主催のコメ生産地視察にて、豊かな生きものを育む水田づくりによるおいしいお米づくりについて解説する農家の方

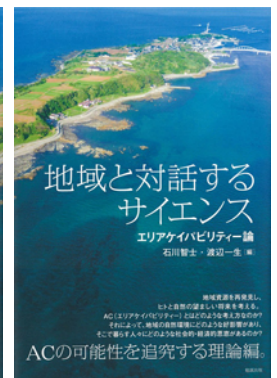


—学術研究から始める地域創生—持続的な水産業のためには、資源管理よりも地域創生が必要

いしかわ さとし
石川 智士 地球研教授

マグロやウナギなど、重要水産資源の悪化が報じられるたびに、乱獲の防止や資源管理強化が叫ばれます。確かに、持続的に生物資源を利用するためには、資源状態の把握やある程度の資源管理は必要かもしれませんが、多くの水産資源は、産卵場や保育場の

環境さえ健全であれば、獲り過ぎで絶滅するようなことはほとんどありません。現代的には、人口減少に嘆く沿岸地域の状況を鑑みて、利用促進と保全活動の両立を進めなければ、地域社会が疲弊してしまいます。私たちは、日本やアジアの沿岸で実施されてきた地域活動を調べ、地域資源を住民組織が有効利用をすることによって、資源利用のモニタリングや環境保全が推進され、地域の活性化が図られるエリアケイパビリティサイクルという活動モデルを提案しました。このモデルに沿った活動では、文理融合の学術研究が地域創生や地域活性化や人材育成に直接貢献できる道を示しています。今後、このような活動が広がり、新たな学問分野が形成されるよう願っています。



『地域が生まれる、資源が育てる—エリアケイパビリティの実践』(左)、『地域と対話するサイエンス—エリアケイパビリティ論』(右)、石川智士・渡辺一生編、2017年3月

4 出版物その他

●地球研和文学術叢書



●ニューズレター



●要覧



●刊行物・冊子




そのほか、会場にてご用意いたします。

地球研ホームページ <http://www.chikyu.ac.jp/>

 <https://www.facebook.com/RIHN.official>  <https://twitter.com/CHIKYUKEN>

 <https://www.youtube.com/user/CHIKYUKENofficial>

 <http://www.chikyu.ac.jp/publicity/iTunesU.html>

懇談会についてのお問い合わせ



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature

広報室 遠山・北・木村

TEL: 075-707-2430 (直通)

FAX: 075-707-2106

E-mail: kikaku@chikyu.ac.jp